

伝統の力で甲子園へ

静岡県立静岡商業高等学校

校長 松浦 真一郎



昭和59年（1984年）3月に静岡を卒業し、今年4月に第33代校長として40年ぶりに母校に戻ってきました。在学中は硬式野球部に所属し、野球中心の高校生活を送っていました。静岡商業後、大学に進学した後、静岡県の県立高校教員（商業科）として採用され、今に至っております。

これまで赴任した学校では、野球部の顧問として高校野球に携わる機会が何度かありました。その中で強く感じたことは、静岡硬式野球部のレベルの高さです。これは技術的なことだけでなく、意識の面や練習内容も違います。また、OB会や後援会の組織力も違います。一言で表すなら、本気で甲子園を目指す学校とそうでない学校との違いです。静岡硬式野球部は言わずと知れた甲子園大会での優勝、準優勝をはじめ、数々の輝かしい歴史を重ねてきた伝統校です。

今年度の戦績は春、夏、秋と3季連続で県ベスト8に進出しました。あと一步のところで惜敗している現状を打破しようとして、新チームは外山部長、原田副部长、曲田監督、OBコーチの指導の下、とても良い雰囲気で、内容の濃い練習をしています。硬式野球部の生徒は、学校生活でも様々な場面でリーダーとして活躍するなど、学校の活性化に大きく貢献しています。野球のみならず、スポーツで勝つには人間的な成長が不可欠です。私は今の硬式野球部を見ると、伝統のユニフォームSEISHO Oが甲子園で躍動する日は遠くないと信じています。

今後とも後援会の皆様には、様々な面でお世話になりますが、変わらぬ御支援、御協力をよろしくお願いします。

創部100周年に向けて

ベスト8の壁を超えるために

静岡商業硬式野球部

監督 曲田 雄三

日頃より、本校硬式野球部の活動に物心共に多くのご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

グラウンドに掲げられた「SEISHO PRIDE」。現3年生のチームを振り返ると、この言葉の重みを背負い、支えられ、もがきながら戦い続けた一年だったと思います。

昨年の秋季大会での地区予選、初戦敗退から「この静岡商業高校で何をしたいのか、選手に何を伝えたいのか、そして何を变えていかなければならないのか」を見つめ直すきっかけをいただきました。「あの悔しさがあったから今がある、そう言える夏にしよう」秋季大会の敗戦時に選手と誓ったこの言葉こそが、一年間私と選手とをつなぐ、どんな苦境の時も静岡商業高校の在るべき姿を追い求める原動力となりました。練習で身についてきた力を実感すること

オールウェイズ 昭和27年 選抜優勝

昭和二十七年四月六日、第五回選抜高等学校野球大会の決勝戦が行われました。（注：当時は第五回大会として開催されていますが一九五五年の中等学校時代の大会と通算されることになり、現在は第二十四回大会として扱われています）

決勝の相手は、前年の優勝校鳴門高でした。専門家の多くは鳴門高の連続優勝を予想していましたが、静岡田所投手は、鳴門高の強打者を次々に打ち取り奪った三振は実に十一、攻めては一、三回の好機をものにして二点を奪い、2-10で優勝しました。

田所投手は全試合を完封し、その怪腕を全国に轟かせました。まだテレビのない時代のことで、多くの静岡ファンは、ラジオ放送を聴いての応援でした。静岡ナインは、紫紺の大優勝旗を獲得しての凱旋となりました。

八日午前九時十四分神戸発上り急行「阿蘇」に乗っ

のできた充実感の一方で、甲子園を目指すための課題が明確となった春の大会でした。シード校として迎える選手権静岡大会。選手たちの姿は、ベンチで見えていてとても遅く、静岡としての誇りを持って戦う彼らの姿を見ながら胸の中に熱く込み上げてくるものがありました。就任後、初めて中学生の頃から追いかけてきた子たちとの夏が終わりでしたが、結果以上に様々な想い入れのあるチームに成長してくれました。

夏の選手権の悔しさをぶつける今秋の大会でしたが、県の準々決勝で終わり、春・夏・秋とベスト8での敗退となってしまいました。さらに上の舞台での戦いの

ためにチームとしてこの壁をどう乗り越えるのか、それがこの冬のテーマだとチームで共有しています。

「負けを負けで終わらせない、それこそがSEISHO PRIDEだね」

一日一日の練習が必ずこの壁を超える答えとなると信じ、その先にある甲子園、さらには、創部100周年に向かう本校硬式野球部の更なる成長のために、日々精進してまいります。今後とも選手たちに、熱い声援をよろしく願います。皆様におかれましては、時節柄、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

た静岡ナインは、同日午後四時四十五分静岡駅着後、直ちに関係者の祝辞を受け、駅前から呉服町通りをプラスバンド部を先頭に行進。県庁、市役所を訪問後、公会堂の市民祝賀会に出席しました。同日夜は、同窓会、市民のちょうちん行列が行われました。



春の選抜高校野球大会で優勝した静岡ナイン（北原さん提供）

新チームの一言

【1年生の一言】

宇田 柊斗	真っ直ぐを武器にテンポよく試合を作れる投手になりたい
林 誠吾	変化球のキレとコントロールで勝負できる選手になりたい
酒 旬 基	常に全力で試合を戦いチームのために結果を出す
渥 美 爽	伸びのある球をコースに投げ分けて打者を抑える投手になりたい
風 間 陽向	守備と走塁に徹し誰よりも声を出す選手になる
富 重 滉太	バントなどの小技や単打で出塁して足を活かすプレーをする
河 口 碧	バッティングでチームを鼓舞する選手になりたい
山 崎 拳 慎	自分の守備でチームを活気づけられる選手になりたい
杉 井 美 咲	先生方や選手、先輩マネージャーから信頼される人になる

【2年生の一言】

鳥 羽 咲 跳	小技を活かした打撃で安打を量産するバッターになる
野 原 秀 太	どんな場面でも自分らしさを出しベストのプレーができる選手になる
山 野 仁 綺	必ず一打席目に出て、チャンスを作る選手になる
山 本 敢 生	ピッチャーの中心となり、投打でチームを引っ張れる選手になる
秋 田 蓮 至	打撃でも守備でも粘り強くプレーする選手になる

岩 田 晴 臣	守備で流れをもって来れる選手になりたい
杉 山 怜 矢	堅実な守備とシャープな打撃でチームに貢献する
山 崎 功 太	チームを引っ張り勝たせられるピッチャーになりたい
秋 山 晴 亮	走攻守三拍子揃ったみんなに応援される選手になりたい
成 岡 翔太郎	低く強い打撃と肩を活かした守備で周りから信頼される選手になる
堀 内 綜 馬	自分が打ってチームの流れを変えられる頼れるバッターになりたい
宮 腰 龍太郎	どんな状況でも動じることのない精神的に強い選手になりたい
横 山 蓮	チームを勢いづけるチャンスメイクができる選手になりたい
岡 谷 蓮太郎	どんなピンチでも抑えることができる投手になりたい
杉 山 大 悟	バッティングを持ち味にしてチームを引っ張る選手になる
長 島 拓 翔	勝負強いバッティングをし、チームの勝利に貢献する
坂 上 拓 海	守備、バッティング共にチームに必要とされる選手になる
鈴 木 海 翔	積極的な守備、走塁でチームから頼られる存在になる
戸 田 来 希	守備固めとして試合に出て、一点を防げる選手になる
八 木 南菜子	何事にも責任を持ちチームの勝利に貢献する
河 村 日 和	責任感のある、周囲から信頼されて頼られる人間になる